

長野県議会議員

改革・新風

ISAWA DAI

石和 大



「県政を身近に」「身近な声を県政に」

大ちゃんニュース

石和 大の県政レポート vol.5

6月議会の開会に先立ち、6月12日から3日間福島県の被災地に入る事ができました。いわき市、広野町等海辺の地域です。そこでは、津波被害の大きさにあらためて脅威を覚えましたが、何より大きいのは目に見えない放射能の被害です。原発から半径20キロ圏内に住所を持つ方にもお話を聞く機会を得ました。私と同じ子育て世代の方です。「自分は無理をして帰ることも可能かもしれない。しかし、子どもは立ち入らせられることも出来ない。故郷をみせることすらできない。親と同じ故郷を持つことが叶わなくなってしまうことがなにより悲しい。」そして、「子ども

がいないところに未来は見いだせない。」と話されていました。私は、あらためて実感しました。自然エネルギーへの移行、再生可能エネルギーへの転換。最善の努力で、信州だからこそできることを、なるべく早く成し遂げるこそが目指す方向であると。



津波で削られた岬(いわき市)

5回目の県政レポートをお届けします。



『信州らしさ』様々な県政の分野でよく使われる言葉です。それは一言で説明できるものではありません。しかし、より具体的信州らしさを発信する、もちろん「信州の良さ、素晴らしさ」を。その必要性、重要性を感じています。今回の質問は、「自然エネルギー」・「信州教育」・「おいしい信州ふード(風土)」という分野で、信州の底力を発揮するために、今できる事という視点で質問しました。

2012 6月定例県議会 一般質問(抜粋)

1. 自然エネルギー元年の取り組みについて

【石和議員】県営水力発電所について、中部電力への譲渡を白紙に戻したことを評価している。どのような経過でこの結論を導き出したのか。

【阿部知事】エネルギー情勢の変化・公営電気事業の新たな役割等の観点を考慮し、改めて長野県にとつて望ましい電気事業の形態を検討する機会を持つことが適当と判断した。

【石和議員】100%自然エネルギーに向けての現状と見通しはどうか。

【環境部長】長野県における再生可能エネルギーの自給率は、61.2%。将来利用可能な容量は、最大需要電力の2倍以上ある。それらを踏まえ、「エネルギー自給戦略」を策定していく。

【石和議員】農業用水を活用した小水力発電のメリットと今後の事業展開の見通しをどう考えるか。

【農政部長】農業用水は、安定した流量が確保されており、取水施設もあることから、活用しやすい利点がある。さらに、売電収入を土地改良施設の電気料や、農業水利施設の維持管理に充てられるメリットがある。

2. 信州教育の再生について

【石和議員】教員の不祥事が続く要因として、教員の人事管理の体制にも問題があるのではない

か。人事権等を広域連合単位に持たせるような体制をつくって、責任を明確にするという考え方もあるのではないかと。

【阿部知事】義務教育の教員の人事権は県教育委員会にあり、服務監督権は市町村教育委員会にあるなど、県民の目からみると、責任の所在が不明確な部分がある。今回設置する外部有識者による検討会議において、幅広く検討されることを期待する。

【石和議員】県教委と知事部局との連携をいかに強化していくのか。また、信州教育再生にかける思いは。

【阿部知事】教育の課題は様々ある。「教育を新しい総合計画にしっかり位置づけて、教育委員会の皆さんと丸ごと「教育再生」に取り組みたい。」

【石和議員】「おいしい信州ふード(風土)」として認定した野菜や果物を使って作った料理を、どのように発信し、どのように活用していくのか。

【農政部長】旅館やホテル等の料理人を対象にした食材商談会などを通じて生まれたメニューを、ホームページに掲載することのほか、食べられるお店をグルメ情報サイトに掲載することにより、県内・外へ情報発信する。

☆全文が県議会ホームページに掲載されております。そちらもご覧いただければ幸いです。

改革・新風事務所 東御市支部. Map showing location near 東御市 and 信州自動車道. Contact info: 〒389-0502 東御市鞍掛73-1 (響神楽1F) TEL: 0268-75-8513 FAX: 0268-75-8514

大ちゃん活動スナップ



▲福島第1原発警戒区域直前の検問

▲先人の技術が生きているめがね橋(辰野町)

▲危機管理建設委員会での質問(委員会室)

▲集積されたガレキ(いわき市)

▲神奈川県庁前(横浜市)

▲整備が進む県道(飯田市)